

本荘こけしを楽しむ

由利本荘市

秋田県伝統的工芸品



買う
BUY

お土産にぴったり！
お気に入りの子を見つけてよう！



2

3

主な取り扱い店



トイ・ショップ
鳥海山 木のおもちゃ館
内ショップ。
市内の本荘こけしを取
り扱っています。

TEL : 0184-74-9070



**道の駅 にしめ
物産館**
物産コーナーにて、齋
藤祥子工人の作品を
取り扱っています。

TEL : 0184-33-4260



民芸さいとう
店内のこけしコーナ
ーにて菅原修工人の作
品を取り扱っています。

TEL : 0184-23-0075

湯沢市の
秋田県こけし展等、
各地のイベントなど
でも購入できます。

※本荘こけしは職人が手作業により制作しているため、時期により在庫が無い場合があります。在庫の有無に関しては、事前に店舗へご確認ください。

- 1 存在感のあるサイズ感 | 8寸(約24cm)4,000円～
- 2 本格的なはめ込み構造ながらコンパクト。机の上にちょうどいい | 4寸(約12cm)1,650円～
- 3 手のひらに収まるミニサイズ | 豆こけし 1,210円～
※サイズや仕様により金額は変わります。

体験

EXPERIENCE

こけし絵付け体験

職人気分で挑戦！白木のこけしに顔や模様を描いて、
世界に1つのマイこけしをつくってみましょう。
完成品はその場で持ち帰れます。



体験の流れ (所要時間: 約1時間半～)

- 1 こけし工人より、本荘こけしについてのお話
- 2 紙に試し書きをします
- 3 いよいよ本番！顔から胴の順に絵付けします
- 4 底に自分の名前を書いて完成！



料 金：1,200円～/個 (※サイズ/仕様によって異なります。※別途会場が必要な場合があります)
受 付：10名以上より (要相談) 問合せ：☎080-6054-6637 (菅原工人)

観る

APPRECIATE

鳥海山 木のおもちゃ館

木造校舎に人の背丈程の巨大こけしが並びます。
民具展示室やもりのあそびば(※)にも本荘こけしを展示中。



由利本荘市町村字鳴瀬台 65-1 旧鮎川小学校 ☎0184-74-9070 ※有料ゾーンには入館料が必要です。
(時) 9時～16時 (12月～2月は10時開館) (休) 木曜日 (12月～2月は水曜日も休館)

本荘郷土資料館

資料として本荘こけしを展示しています。由利本荘市石脇字弁慶川 5 ☎0184-24-3570
(時) 9時～17時
(休) 毎週月曜日および12月28日から1月3日
(月曜日が祝日の場合は翌日休館、展示替え期間随時休館になる場合があります。)



おもちゃ館では、
ショップでの販売や、
絵付け体験(不定期)
も楽しめます！



Japanese wooden doll
"Honjo kokeshi"

JAPAN,
AKITA,
YURIHONJO



てえんで めんけえあなだもん

本荘こけし

本荘こけしの歴史は、明治期に鳴子（宮城県）からの木地師・高橋弥太郎が本荘の地へ移り住み、木地技術を伝えたことに始まります。その技術を受け継いだ職人の一人・河村辰治が、明治30年頃鳴子で改めてこけし作りの技を習得。その技を本荘に持ち帰り、子供の玩具や土産物の“本荘こけし”として販売されました。そのルーツから鳴子こけしの制作方法を顕著に引き継いでおり、外鳴子（鳴子から分化し系統を保ちながら鳴子以外の場所で作られたもの）とも認識されています。

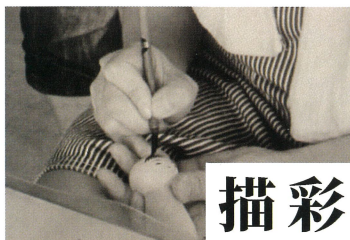
以後120年以上の年月を経て受け継がれ、現代でも本荘こけしの特徴である飾りすぎることのない素朴な慎ましさに魅入られ、多くの愛好家が存在しています。

令和6年1月、秋田県伝統的工芸品に指定されました。



魅力

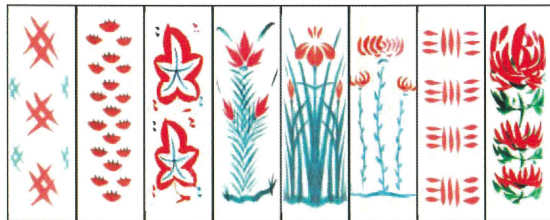
面描は、横引きの眉に、点に近い目、丸鼻、おちょぼ口を描いた**おだやかで素朴な表情**。前髪の両脇にはびん髪、上部には三方向にかせ（結び目）を添え、子供の束ね髪が表現されています。胴模様は、下記の8柄を伝統柄としており、他産地に比べ簡素な模様が特徴です。



描彩

本荘こけし伝統柄 (左から)

いげた かすり かえで せきちく
井桁 / 緋 / 楓 / 石竹 /
たぎくかわ いげた えんぎく
あやめ / 立ち菊 / 変り井桁 / 炎菊



技術

本荘こけしは、頭に比べ胴が細身で、なで肩のすらりとした立ち姿をしています。熱膨張を利用し胴に頭をはめる「**はめ込み**」の構造により、首を回すことができるほか、回したときにキュッキュッと音が鳴ります。はめ込みには熟練の技術が求められます。



素材

材料には、主に**エゴノキ**、**ミズキ**、**イタヤカエデ**が使われます。特に、日本荘市で身近であった「エゴノキ」は、轆轤木ともよばれ加工に優れる他、白地で描彩が映えるため多く利用されてきました。工人自ら立木を伐採する場合があります。

こけし工人紹介

伝統の技を受け継ぐ工人(こけし職人)達を紹介します。

菅原 修 工人

秋田県認定工芸士(令和7年1月認定)

☎080-6054-6637



昭和62年、当時本荘こけしの伝統を継いでいた河村守から許可を受けて本荘こけしの制作を始めた。木地師として、神奈川県鎌倉市での鎌倉彫や、由利本荘市に帰郷してからの漆器用木制作に携わっていたことから、木材とその加工に関する知識と技術は他産地のこけしの作り手からも一目置かれた存在である。継承者が一時途絶えた時期を含め、長きにわたり本荘こけし作りの技を継いで今に至る。温厚な人柄がこけしの優しい表情に表れる。



@usa6.6chan

平成27年から制作を開始。『自分は保育園関連の仕事との両立でまだまだ修行中ですが、長年師匠が受け継ぎ、頼もしい後輩2人も精力的に取り組んでくれることで、この度「秋田県伝統的工芸品」に指定されました。今後もルーツである「河村家のこけし」を踏襲していきたいと思っています。』

佐藤 こずえ 工人



@honjokokeshi_sachiko

齋藤 祥子 工人



平成30年から木地修行・こけし制作を始める。現在も菅原工人のもとで、修行を続けながら、伝統を守りつつ、表情の工夫や新しい柄の表現にも挑戦している。『こけし作りは、木地づくりから鍛冶まで必要な技術がたくさんあるので、そのひとつひとつの技をしっかりと身につけたいと努力しています。』

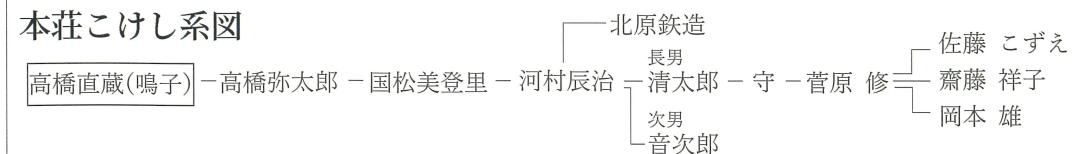


@mokkousha_tsukinowa ☎090-3270-7730

古の工人たち

本荘こけしを完成させた河村辰治の技は、河村家（清太郎、音次郎、守）や弟子の北原鉄造に引き継がれました。その後河村家に継承者がおらず、作り手が一人となった時期もありましたが、危機的時期を乗り越え、現在では4名の作り手がその技を継承しています。(左より河村清太郎作・河村守作・北原鉄造作のこけし)

本荘こけし系図



本荘こけしが できるまで

中もぎ

原木の丸太を4尺程度に切断し揃える。



皮削り

手斧、パンカキ、鉋などで皮をはがし取る。

中割り

斧、櫻を用い、丸太を十字に四等分する。

玉きり

丸鋸でこけしの高寸に合わせて切断する。



木取り

丸鋸等を使用し、材料の角を落とす。



挽き

頭部と胸部をそれぞれ別々に削り出す。



はめ込み

胸部先端(首部分)に穴をあける。



頭部の突起を回転による熱膨張を利用し差込む。



描彩

墨、染料を使用し絵付けする。

蠟引き

蠟を塗り布で磨いて表面の保護と艶出しをする。



完成